

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 「毎日の暮らしの中でその人らしい生き方を見つけ出していただくと共に、ここで暮らすことが人生の中で一番幸せと感じていただけるような家庭的なホームを目指します」との理念をつくり上げている。  | 理念は事務室に掲示されており職員会議やミーティングの際に唱和したり確認をしている。落ちついた家庭的な雰囲気の中で日々理念に沿ったケアが行われている。  |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | お花見、お祭り、どんど焼きなどの地区の行事に参加している。また中野小学校、高丘小学校とは運動会や文化祭等に参加し交流している。年1回豊田中学校の福祉体験の受け入れをしている。本年度より川掃除に参加し地域に協力させていただいている。近所の方から野菜や果物の差し入れが多い。   | 今までは区費を支払っていたが今年度から地域の一員として近くの川の清掃活動に職員2名が参加し一歩進んだ地域活動を行っている。地域の行事にも参加しているが高齢のため参加者が少なくなっている。参加者40人位の地域開催の「生き生きサロン」にグループホームから3名が参加しホームの実情等の講演もした。中学生の体験実習を受け入れ、小学生との交流も毎年続けられている。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 安源寺地区のふれあいサロンでホームの様子を話し、このホームの事を地域の皆さんに理解していただくようにしている。中野市の視察にも来ていただき、このホームの説明をしている。  |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | ホームの近況報告や話し合いをしている。家族代表、行政、地域包括、理事長、管理者、計画担当がメンバーとして参加している。地域密着型サービス、看取り、GH改正消防法等について話し合われている。本年度は5月19日と8月26日と12月15日に行った。次回は3月22日に予定している。 | 平成22年3月に1ユニットから2ユニットになり繁忙を極めていたため運営推進会議が定期的に開催出来なかったが、今年度はすでに4回開催している。区長よりの提案で河川清掃等の地域奉仕活動に参加するなど、委員よりいただいた意見を運営に反映している。  |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 市担当者や包括支援センターとは具体的な連絡を取り合い、相談、報告している。毎月第3火曜日に市が主催している「保険・医療・福祉事例検討会」に管理者と計画作成担当者や職員の3名で出席している。中野市より介護相談員が2名きて入居者の相談にのってもらっている。            | 市担当者、地域包括支援センターとの連絡は密に行われ協力関係が築かれている。運営推進会議にも出席していただいている。市が主催し毎月開催される「保険・医療・福祉事例検討会」に管理者、計画作成担当者、職員が出席している。介護相談員が2名訪れ入居者の相談に乗っている。介護相談員の研修の場としてホームを提供している。                        |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は施錠はせず、チャイムや見守りによるケアを実践している。夜については家族の了解を得て、利用者の安全を確保する必要がある場合は施錠する場合がある。身体拘束について会議で話し合い職員同士で理解している。                                     | 職員は拘束の弊害について正しく理解している。職員会議でも「こんな言葉がけが拘束になるの？」等、確認し合っている。玄関の施錠を含め拘束をしないケアを行っている。   |                   |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 全体会議で、勉強会を開き職員も理解している。   |  |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 全体会議で、勉強会を開き職員も理解している。成年後見人制度の研修に管理者、サービス計画担当者で出席している。後見人制度について必要なケースがあったため包括支援センターや利用者で話し合い進めている。 |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 利用契約時には文書で示し、口頭で説明する。  |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 市の介護相談員を受け入れている。   | 家族が訪れた時耳を傾けたり話をし、入居者の様子を伝えている。「安源寺日和」が毎月発行され家族のもとへ送られている。入居者の高齢化に伴い家族も高齢化し関わり方を考えている。小遣いの補充や通院のお願いをし、来訪していただく機会を作っている。2ユニットの生活が落ち着いてきたので「家族会」を作ることも検討している。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 月一度の全体会議を行い意見や提案を聞く機会を設けている。   | 月1回法人の理事長も参加し職員会議を行い活発に意見交換している。話し合った結果や提案などはケアに反映させている。毎回「一口勉強会」と題して職員が交代で発表する時間をとっている。   |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 常に、労働時間と仕事内容を把握し外部類似施設の給与水準と比較しバランスをとっている。   |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 定期的に施設の理念を確認し、職員の毎日のケアの中においても職員の力量に合った自己実現がされているか確認している。   |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 長野県宅老所・グループホーム連絡会を中心ネットワークを結び、定期的に他ホームとの職員交流を行い、職員とサービスの質の向上確認をしている。                               |  |                   |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |  |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご利用前から本人・家族と面接し、希望・要望を確認し、できるだけ意向に添えるよう取り組んでいる。               |  |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | どんなことでも、相談していただくようにお伝えしている。                                   |  |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 本人の意思を確認し、その方にあったサービス利用を紹介したり相談にのっている。                        |  |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 昔の生活経験、習慣を尊重し、それを活かして過ごす事が出来るよう努めている。                         |  |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 本人の希望や昔からの趣味、特技をいかしただけのよう家族と一緒に話し合い、ここで楽しく毎日を送っていただけるよう考えている。 |  |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 本人が希望した場合、行きたい場所には、お連れしている(自宅、店)面会、電話のとりつぎ、面会の場所を作り開放的にしている。  | 2～3日間隔で訪れたり、定期的に来たりと、親戚、友達の方が来訪している。自宅の近所の方が会いたいと連絡があり、入居者と馴染みの関係が切れないようにと管理者が迎えに行くこともある。市の無料理美容券で馴染みの理美容院に出掛ける方もいる。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 職員が中に入り、雰囲気作り、仲間作りができるよう支援している。                               |  |                   |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 退居後も家族の方・本人が訪問しやすいように努めている。退居後もその後の状況把握に努めるように連絡をとりあっている。   |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | できる限り、一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握するよう意見を出し合い、話し合っている。   | 2ユニットの入居者のうち半数ほどの方は思いや意向を伝えることができる。伝えられない方は生活歴等も参考にし、日頃の関わりの中での会話や様子、思いなどを汲み取り、職員間で話し合っ共有している。   |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人の希望を聞いている。出来る限り今まで通りの生活が出来るように努めている。  |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 見守り、観察を行っている。   |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の希望、意向を尊重しながら、より良い生活ができるよう検討している。職員の担当性をとっており、入居者のアセスメントを定期的に行い、職員全員で話し合っている。それを元に介護計画を作成している。 | 職員の担当制で対応している。入居者が困っていることや家族の希望を取り入れ、職員全員でアセスメントを行い計画作成担当者がケアプランを作成している。定期的に見直しも行っている。地域包括支援センターでケアプランを点検してもらい、より充実したケアプラン作成を目指している。職員が他のグループホームに出向きケアプランについて勉強するなど地域のネットワークを活かしている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別の記録は必ず日誌に書くようにして情報を共有するようにしている。   |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | その時のニーズに応じ、柔軟な支援を臨機応変に行っている。  |  |                   |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|------|---|--|---|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容                                  |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している  | 地域区長、民生委員、介護相談員等に協力を得て、ホーム内では対応できない事項等の支援を頂いている。   |   |  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                      | 本人、家族と相談し、かかりつけ医等受診している。   | 家族の依頼によって入居前のかかりつけ医からホームの協力医に変更される方がいる。通院については家族で行なうのが基本なので家族の理解を得られることが必要となっている。訪問看護師による健康管理や相談が月2回行われ、協力医による予防接種もホームで実施されている。 |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                              | 必要な場合には市の保健師、栄養士に相談している。新生病院訪問看護ステーションとの医療連携の契約をすることになっている。  |   |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。     | 病院関係者と相談、情報交換している。入院中職員が面会に行き、医師、看護師から状態、経過等を聞いている。  |   |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 全体会議で終末ケア等について職員全員で話し合っている。状態により早いうちに家族、主治医と話し合いを行っている。本年度より訪問看護ステーションと医療関係者を取ることで、重度化や終末期に向けた支援にチームケアで対処していきたい。 | 高齢化が進み重度化した中で医療面の相談支援が必要となり、平成24年4月から隣町の病院と「訪問看護業務委託契約書」を結び実施予定である。急病の際に往診して下さる医院を探していたが往診をして頂ける医師が見つかりお願いし来て頂いている。             | 高齢化・重度化する中で終末期の方針について家族と話し合い、職員間で共有していただくことを期待します。 |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変、事故発生時について慌てず対応できるよう会議で話し合っている。職員全員が応急手当等の訓練を、これからは定期的に行っていきたい。訪問看護ステーションと常に連絡を取るようにしたい。                       |   |  |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 消防署の方、近所の方に来ていただき、昼、夜の避難訓練を行っている。近所の方に協力をお願いし、承知していただいている。本年度から4月26日の17時から避難訓練を行った。                              | 昼夜を想定し年2回避難訓練を行っている。1回は消防署に来て頂き近所の方も参加し通報訓練、避難訓練、消火訓練を行っている。2回目はホームで避難誘導の訓練を行っている。スプリンクラー、煙探知機等も設置されている。非常時の食料品や介護用品の備蓄もある。     |  |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 言葉がけや対応、記録等には一人ひとりの気持ちを大切にしている。全体会議で入居者の尊厳やプライバシーについて話し合っている。  | 職員は入居者に対して人生の先輩として尊敬の念を持ち、トイレ誘導の際には小声で話したり、言葉がけにも誇りをきずつけないようケアを行っている。   |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 利用者の話をじっくり聞く。  |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れの中にも一人ひとりのペースを保てるようにしている。利用者に関わる時はゆったり優しく対応するよう心掛けている。  |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 本人が望む時、望む店に行けるようにしている。訪問理容を受けている方もいる。毎朝くし、お化粧品を渡し、おしゃれにされている方もいる。  |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 盛りつけや色あいに食欲をそそるような工夫をしている。<br>利用者の方に準備・片付けと一緒にやっていただいている。できるだけ職員と利用者は一緒に食事を摂る。一緒に調理出来る方には皮むきなどお手伝いをお願いして一緒に調理している。 | 入居者は準備や食後の片付けなど、出来る範囲で楽しみながら手伝っている。塩分控えめで入居者も全部残さず食べていた。隣に座っている入居者と「山を見ながら美味しい食事を頂けるっていいね」と会話しながら食事を楽しんでいる方もいた。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 一人ひとりに合わせて盛りつけ量や水分量を調整している。食事制限のある方には代わりのものを付ける等している。  |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後、口腔ケアの見守り、声かけ介助を行い、歯みがきのチェックをしている。  |   |                   |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | オムツをできる限り使用しないで済むように、排泄パターンを把握し、排泄の声かけ、誘導している。排泄表をつけて確認している。                                      | 自立の方が多いが状況に応じて言葉かけを行ったり、排泄チェック表によりトイレ誘導をしている。オムツに頼らないケアを行っている。   |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 野菜・海藻を多く摂取し、水分も多めに摂取していただき体を動かしていただくよう努めている。受診時に医師から便秘薬を処方されている方もいます。排泄表をつけて確認している。               |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 入浴に声かけし、一人ひとりの希望やタイミングに合わせている。毎日の入浴もシャワーも可能である。仲の良い利用者同士で入浴されることもある。介助が必要でない方にも万が一に備えそっと見守りをしている。 | 入浴は週2回となっているが希望があれば何時でも入浴出来る。見守りには職員2名がつくようにしている。お風呂はとても喜ばれこの時間は会話も多い。入る時には渋っていたが入ると「アー気持ちいい」と喜んでいるんですよと職員が話してくれた。介助の必要な入居者も職員の支援を受け、その方に合った入浴を楽しんでいる。介助を拒む入居者にはそっと見守りをしている。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 一人ひとりの気持ちに合わせた自由の生活を心がけている。昼間は身体を動かす事を支援し、夜間、良眠していただくように支援している。                                   |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬局の処方箋をご利用者毎にまとめ一冊のファイルに綴り、付箋をつけて見やすいようにまとめている。各自、お薬手帳をもっている。                                     |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 一人ひとりの生活歴(趣味、職業等)を聞き、ここでの役割や楽しみごと等で活かしていただいている。   |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの希望に添って戸外に出かけるようにしている。(自宅、美容院、受診、銀行、買物、外食等)  | 普段天気の良い時には散歩に出掛けている。近くの公園や浜津ガ池公園のハスを見たり、近くの桜の花見や紅葉狩り等に出掛けるなど外出の機会が多い。時には入居者の希望により車で近くを一周し四季の自然を楽しんだりしている。職員も車椅子を押しながら入居者に寄り添って外出をしている。                                       |                   |

ヒューマンヘリテージ安源寺

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 財布を個人で管理できる方には、希望や、力量に応じて支援している。  |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話は取り次ぎ、かけたい希望がある場合には希望に添うよう対応している。居室に電話を設置されている方もいる。手紙が届くと本人に渡している。      |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | オールバリアフリーで食堂、居間、廊下と柔らかな照明のもとで安全性に優れた家具を備えている。装飾は季節により変化し、手作りで楽しめる工夫をしている。 | 玄関を入ると広い廊下になり車椅子2台がすれ違っても余裕がある。昼食後、車椅子を押しながら2人の入居者が歌を口ずさみながら合唱部だよと声をかけてくれた。掲示板には入居者のスナップ写真が飾っており、理事長のアメリカ土産の野球チームのペナントや「イチロー選手」の写真が飾られている。ホーム全体がバリアフリーになっており、共有空間にはソファが各所に置かれ温度調節もされ居心地が良い。食後、窓際にあるソファに腰かけ外を眺めながら休んでいる入居者の姿が印象に残った。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 居間にソファや廊下にベンチを置いたり、利用者同士でも楽しめる。   |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 使い慣れた家具、装飾品、電気製品等を自由に持ち込んでいただいている。こたつ等を楽しんだり自由な部屋作りをしていただいている。            | 自宅で使っていたファックスや電話が置かれている居室、大きなソファがある居室、馴染んだ家具や装飾品を置かれている方など、居心地も良さそうで充実した生活ぶりを垣間見ることができた。大好きだった歌手の写真やCDが置かれた居室からはその方の入居前からの暮らしが継続されていると感じ取れた。各居室とも整理整頓されていて清潔な印象を受けた。  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 一人ひとりの状態に応じて居室等にわかりやすい貼り紙をしたりして混乱しないよう工夫している。電気等の設備も本人が使いやすいように直している。     |   |                   |